



国際メトロポリス会議 2016 愛知・名古屋 人の移動と社会統合に関する叢智によって、相互信頼と平和を目指す

関西学院大学 教授 井口 泰

2016年10月24日から28日まで、愛知県名古屋市の名古屋国際会議場において、「国際メトロポリス会議 2016 愛知・名古屋」(International Metropolis Conference 2016 in Aichi-Nagoya)を開催します。ここでは、この会議を誘致できた経緯、目的と会議の内容についてお伝えし、自治体の方々に関心を持っていただきたいと思えます。特に、人の移動と社会統合が、アジアや世界における相互信頼と平和の実現に果たし得る役割を考え、外国人との共生による地域の発展と国の制度・政策の改革のため、自治体の協力の輪を広げられることを願っています。

部があります。その年次会議である国際メトロポリス会議は、1989年にワシントンDCで開催され、人の移動と社会統合に関する世界最大のフォーラムとして欧米諸国を中心に開催され、非常に高い国際会議の格付けを得てきました。

その目的は、国際的な人の移動(Migration)のマネジメントを改革し、多様性(Diversity)をもった人々の社会的統合(Integration)を実現し、活力ある世界を構築することとされています。

特に重要なことは、研究者(Researcher)のみならず、政策担当者(Policy maker)および実務家(Practitioner 企業・NPO関係者、弁護士などを含む)の3者の垣根を取り払うことによって、科学的根拠および現場の実務を踏まえて、政策議論ができるようにすることです。その必要性は、欧米だけでなく、日本を含むアジア諸国でも高まっていると考えます。

このプロジェクトに関連する政策分野は、政治・外交、経済政策、社会政策から、出入国管理や統合政策(日本の多文化共生政策)に及びます。人の移動をめぐる日々の現実都市にあるとの考え方から、都市のイニシアチブを重視しており、メトロポリスという名称を用いています。

昨年9月は、メキシコのメキシコシティ(2015)で開催され、それ以前は、ミラノ(2014)、タンペレ(2013)、アズレス(2011)、ハーグ(2010)、コペンハーゲン(2009)、ボン(2008)などの欧州の都市が熱心に誘致し、研究機関やNGOなどが協力し、各国政府の支援を受けて実施してきました。

今世紀になって新興国の台頭が顕著になるなか、アジアでの初の開催を目指す方向性が示されていました。ひとたびは2012年の北京開催が決定しましたが、実施できなかった経緯があります。意欲を示していた韓国での開催も困難になるなか、2016年の会議を、愛知県と名古屋市、それに関西学院大学と移民政策学会の後援を得て誘致することに成功しました。こうした経緯から、

難民、外国人労働者、留学生、多文化共生等を考える、国際メトロポリス会議2016
10/24-28
アジア初開催!!

政策担当者、研究者及び実務家(NGOなど)が集う
 世界最大の国際フォーラムに参加しませんか
 ※会議公用語は英語ですが、講演要旨を日本語で当日配布します。

主要講演者
 Annette Kramme (ドイツ連邦政府・労働・社会省政務次官)
 Dirk Hebecker (国連難民高等弁務官事務所, UNHCR)
 Ovais Sarvad (国際移住機関, IOM)
 内藤 正典 (同志社大学教授・現代イスラム地域研究)
 Petra Bendel (独・エアランゲン・ニュルンベルク大学教授)
 Philip Martin (米・カリフォルニア大学教授)
 Brenda Yeoh (シンガポール国立大学教授)
 井口 泰 (関西学院大学教授・IMC2016組織委員長)

◎国際メトロポリス・プロジェクト
 代表・事務局長 Howard Duncan
 (ケールン大学教授)
 (元カナダ政府市民権・移民局長)
 ◎メトロポリス・ヨーロッパ
 代表 Jan Rugh
 (ベルギー・ブリュッセル大学教授)
 ◎メトロポリス・アジア
 連絡事務局: マニラ, ソウル, 北京

参加者個人で、
 ワークショップでの
 報告(英語)を申請できます
提案受付中
 ※約80のワークショップを開催予定

METROPOLIS 2016
Aichi-Nagoya, Japan
 Creating Trust through Wisdom on Migration and Integration
 テーマ: 人の移動と社会統合の叢智による平和・相互信頼の構築

国際メトロポリス会議2016事務局
 〒462-8501 兵庫県高砂市上ヶ原一丁目1-155
 関西学院大学経済学部 第二教授研究棟303号室

愛知県 名古屋市 移民政策学会

国際メトロポリス会議 2016 愛知・名古屋の誘致

国際メトロポリス・プロジェクトは、カナダ・移民局が創始し、現在、カナダ・オタワのケールトン大学に本



日中韓にアセアン諸国やインドの関係者も加えて、組織委員会を発足させました。

国際メトロポリス会議のテーマと内容

アジア誘致にあたっては、現在の世界およびアジア情勢を踏まえて、「人の移動と社会統合に関する叢智を通じた平和と相互信頼」(Creating Mutual Trust through Wisdom on Migration and Integration) をテーマとしました。

近年、世界的な気候温暖化など気候変動が顕著となり、世界中で自然災害が増加しています。これに対して人口増加が続き、肥沃で生産性の高い耕地が減少または砂漠化すると同時に、発掘可能な鉱物資源をめぐる国家や民族集団の間の争奪が激しくなっているのです。

また、20世紀を通じて世界を構成する基本的単位とされてきた国民国家の多くが、経済のグローバル化に伴い繰り返される経済危機や、国内の経済格差の拡大に対し、適切に対処できていません。実際、公的債務が累積し、統治機能が低下する一方、政権が国内の少数集団を威圧する事態が少なからずみられるのです。

欧州の難民(移民)危機は、対岸の火事ではありません。大規模な人の移動をもたらす内戦や国際紛争の発生を予防し、これを解決することが基本的に重要です。しかし現実には、アジアでは、中国など新興国の経済発展に伴い、周辺国との紛争が急速に増加しているほか、北朝鮮の核開発への対応をめぐり、地域の緊張が急速に高まっています。

こうしたなかで、現実に国境を越え移動する人々とその家族の安全と人権を確保するだけでなく、これを受け入れる地域社会における制度的インフラを構築し人材を育成し、地域の活性化に生かすことは、アジアと世界に共通の重要課題です。

東アジアの場合は、長年、就労目的の一時的な移動が多く、永住目的の移動は相対的に小さいことが特徴とされてきました。しかし、域内の経済的依存関係が深まるなか、家族移民、結婚移民、帰還移民など、さまざまな移動が急速に増加し、外国人人口も顕著に増えています。同時に、これら移動を仲介するビジネスも活発で、児童・女性などを中心に人身売買などの権利侵害も深刻な状況です。さらに、国外に移住する人々と、その子どもたちに対する医療、言語習得や教育訓練などで、アジア

諸国でも、近年、NGOやボランティアの役割が高まってきました。

こうしたことから、国際メトロポリス会議 2016 愛知・名古屋では、10月25日から28日の午前中に、1)「難民の保護：最も切迫した人の移動のジレンマ」、2)「グローバルリスクの制御：危機の時代における人の移動」、3)「東アジアの信頼の構築：共同的発展と人の移動の叢智」、4)「人の移動、貿易及びディアスポラ：経済統合のエンジン」、5)「アジアの人口変動の壁：人の移動、技術進歩及び労働参加の促進」、6)「包摂的な発展：移動者の受入国社会への統合」、7)「国際及び国内移動の接点：都市のベストプラクティス」、8)「国際的な人の移動に関する包括的政策：地域からの日本再生」に関する全体会議を行います。特に、25日には、ドイツ連邦労働社会省の政務次官が特別講演をされます。

また、10月25日から27日の午後は、参加者自身が事前に提案したワークショップを最大で80開催して、参加型の会議運営を行います。

なお、10月24日には、事前の選択により、トヨタ自動車の工場見学、名古屋入国管理局、名古屋で活動するNGO、浜松市・豊田市・伊賀市などの多文化共生施策の見学にも参加できます。夕方には、多様な文化イベントを準備しています。皆様のご参加をお待ちしております。

(参考) 国際メトロポリス会議 2016 愛知・名古屋ウェブサイト

<http://metropolis2016-nagoya.jimdo.com/>

お問い合わせは、jamps.int@gmail.com 組織委員会事務局 (関西学院大学経済学部内)



アジア初国際メトロポリス会議開催地となった名古屋駅周辺